

令和元年度 京都府立工業高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)実施段階

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 本校「校訓」と「教育目標」を根幹とし、高度技術化社会・国際化時代に対応した工業教育を推進し、国家及び社会の有為な形成者としての人間を育成する。</p> <p>(1) 学習指導の充実による学力の向上と進路を切り拓く指導を推進する。</p> <p>(2) 自他の生命や人権を尊重し、健康で安全な生活を営む態度を育成するなど豊かな心を育む指導を推進する。</p> <p>(3) 国際化、高度情報化、技術革新に対応した教育など社会の変化に対応する指導を推進する。</p> <p>2 小中学校及び大学、保護者、地域社会及び関係機関との連携を強化し特色ある教育活動を展開することにより開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>(1) 資格・技術・技能・コミュニケーション能力等を備えた人材を育成する。</p> <p>(2) 高度な研究開発を行うための確かな基礎学力を備えた人材を育成する。</p> <p>(3) 希望進路が実現できる、魅力ある選ばれる工業高校への改善を常に行うとともに、成果については積極的に情報を発信する。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 生徒は全体として落ち着いた学校生活が送れており、検定試験や資格取得試験においては、難関国家資格にも合格するなど、多くの生徒が合格することができた。</p> <p>(2) 学習指導については、学科と学年部が連携するための会議(学科会議)を授業時間中に設定し、課題を整理するとともに、学力分析に基づいた個に応じた指導ができた。</p> <p>(3) 各学年で必要な学力保証や進路指導を検討することにより、学科と学年部及び進路指導部が一体となった指導ができた。特に進学においては、計画的・継続的な学習指導を行い、各種推薦制度(AO、専門学科推薦、一般推薦)を活用することにより、多数の生徒が第1希望で合格した。</p> <p>(4) 安全管理と安全教育を徹底し、実習や課外活動における大きな事故はなかった。今年度も「事故0」を継続するため、より一層取組を強化したい。</p> <p>(5) 高校生ものづくりコンテスト全国大会機械系旋盤作業部門やWRO JAPAN決勝大会Maker Faire Tokyo 2018等の全国大会に出場、また、若年者ものづくり競技大会京都府大会で優勝し近畿大会に出場することができ、質の高い専門教育の成果であると捉えている。</p> <p>(6) 小中学校への出前授業や、ものづくりの技術を生かした校具の作成・修繕を実施することにより、本校の教育活動に理解を深めてもらった。また、地域行事では、本校で作成した遊具やゲーム等を活用し、地域子どもたちに「ものづくり」の魅力を伝えることができた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 授業改善の一助として、公開授業や授業参観の機会を設けたが、目標としていた参加者には及ばなかった。今年度は、より多くの教員を参加させ、授業の質の向上につなげたい。</p> <p>(2) 就職においては、求人件数は1100件を超え(昨年から150件増)、1次選考でほぼ全員が希望の事業所を受験することができたが、不採用生徒の割合が10%となり、2次以降も不調者があった。今年度は生徒の適正等を的確に判断した指導を図りたい。</p> <p>(3) いじめの防止・解消については、教職員研修を実施するとともに、生徒のアンケート結果から、指導・改善に努めたが、個々の生徒の価値観が影響する事案もあり指導困難な事例もあった。今後、生徒理解を積極的に推進し、効果的な指導につなげたい。</p> <p>(4) 中学生とその保護者への学校説明会等の取組では、実施時期や内容を検討して取り組んだ。しかし、本校に対する興味や関心は示していただいたが、目標とした生徒募集には一歩及ばなかった。今年度は学科改編の趣旨を広く周知させ、全ての学科において募集定員を超える志願者を獲得したい。また、安定した生徒募集を実現するため、適切な機会を捉えて情報発信するとともに、昨年度以上の成果(資格取得者数、技能検定合格者数、国公立大学等合格者数)を目指したより高度な組織的・計画的な教育活動の展開が課題である。</p>	<p>1 学力向上</p> <p>(1) 技術・技能の基盤となる理数系科目及び語学系科目の基礎力を向上させる。</p> <p>(2) 生徒一人一人の学力実態を把握し、「わかる授業」、「実力がつく授業」を目指した授業改善を行い、生徒の学習意欲を高める。</p> <p>(3) 各種資格試験、検定試験等の講習会等を効果的に行い合格者数及び合格率を向上させる。</p> <p>(4) 各種コンテストや模擬試験等への参加を促し、学校生活における課題や目標を明確にさせる。</p> <p>(5) 茶道、着付け教室等、文化的な取組の充実を図り生徒の感性を高める。</p> <p>2 進路保障</p> <p>(1) 進展する産業技術に対応できる技術・技能に加え、コミュニケーション能力、ビジネスマナーなど、実社会で求められる資質や能力を向上させ、個の進路を保障する。</p> <p>(2) 産業構造や企業の採用動向の変化に伴い、新たな技術・技能を習得するための環境を整える。</p> <p>(3) 地元地域や企業と連携してキャリア教育を充実させ、実社会を見据えた進路選択能力や目標達成への実行力を向上させる。</p> <p>(4) 就職については、企業等に対して本校生徒の評価を高められるような取組を増やすとともに、女子生徒の求人開拓を進める。</p> <p>(5) 進学については、適切な情報提供を行い、的確な目標設定と効果的な学習によって志望校に合格できるよう指導する。</p> <p>3 生徒指導の充実</p> <p>(1) 社会的マナーや規範意識を高め、いじめ等の問題行動の防止に努める。</p> <p>(2) 自他の生命や人権を尊重する精神を涵養し、安全な学校生活を保障する。</p> <p>(3) 部活動や生徒会活動、ボランティア活動を充実させ、健康な身体、豊かな心を育む。</p> <p>4 特色ある教育及び広報活動の推進</p> <p>(1) 社会から求められる人材の育成を目指し、各学科の教育内容の充実に努める。</p> <p>(2) 「おもしろまじめ」をアピールポイントとし、わくわくすること、ドキドキすることを、本気で誠実かつ謙虚に、バランス良く実行できる生徒を育成する。</p> <p>(3) 小・中学生を対象としたイベントや出前授業等をとおして、特色ある取組を紹介するとともに、ものづくりの楽しさや特色を積極的に広報し、目的意識を持った生徒の募集に努める。</p> <p>(4) Webページや各種広報紙等の訴求力を高め、教育活動の最新ニュースを積極的に外部へ発信する。</p> <p>(5) 技術や技能を生かしたボランティア活動等を積極的に推進し、地域社会に貢献する。</p>

評価領域	重点目標(取組の重点課題)	具体的方策	評価		成果と課題
学力向上	学習意欲の向上	技能・技術の基盤となる科目の基礎力向上のため、複数教員での指導・習熟度別講座による指導・少人数講座での指導など、できるだけ個に応じたきめ細かい指導に取り組む。	A	A	生徒は座学・実習共に概ね整然と取り組めた。気になる様子等の情報を得た際は、関係教員で集まり、情報共有・指導方針の確認など組織的に対応することができた。授業づくりや新指導要領に向けた研修を重ね、ブラッシュアップタイム実施と併せ、学力向上、資格取得促進・検定合格に繋がった。その結果、教育長表彰生徒数は142名(約80%)と上々の成果を得た。
		生徒の様子を教職員間でいち早く共有し、タイミングを逃さない組織的なケア体制を充実させる。	A		
		基礎学力補習をさらに充実させ、苦手科目をもつ生徒への粘り強い指導を徹底する。	A		
	授業改善	茶道、華道、着付け教室等の放課後活動とともに、文化的な取組を更に活性化させる。	B		
	資格取得	「わかりやすい授業」づくりに全力で取り組む。	A	A	
		令和4年度からの新学習指導要領実施に向けた教職員研修を推し進める。	B		
		放課後活動「ブラッシュアップタイム」をはじめとする効果的な講習会への参加を促し、各種資格試験・検定試験の合格率アップをめざす。	A		
進路保障	実社会で求められる資質・能力の育成	気持ちよくあいさつができ、ひとの話が聴ける生徒を育てる。	A	A	就職について、求人1250件超、一次内定率97%で11月には内定率100%に達した。進学については、早期に決まる推薦AO利用が増える傾向で、国公立大学は7名が合格した。援護制度の広報や活用者への説明、手続きを適切に行い、家庭の経済状況を支援することにより、進路保障に努めた。
	キャリア教育の充実	工業科の専門性と進路保障について各学科で具体策を検討し、新たな技術・技能を習得するための環境作りに努める。	A		
	就修学の支援	全校生徒にインターンシップ(就業体験)、会社見学・大学訪問等の機会を設け、実社会を見据えた進路選択能力や目標達成の実行力を向上させる。	A		
		適切な情報提供により、すべての生徒の希望進路の達成をめざす。就職については、雇用状況の改善の中、専門性を活かした企業等へ本校生徒の取組を積極的にPRする。進学については、課外、学習会など効果的な学習指導を行い、十分な学力を身につけさせ志望校に合格できるよう指導する。	A	A	
		生徒の実情を把握し、援護制度等を活用するなど、様々な困難な状況にある生徒を適切に支援する。	A		
生徒指導	安心・安全な学校	登下校、授業、課外活動等、すべての取組をとおして安全管理を徹底し、安全教育を具体的に計画し推進する。	A	A	登下校時の服装・安全管理を含め生徒心得の大幅見直しを行い、人権意識・規範意識の高揚に努めた。
	健康で心豊かな生徒の育成	安全管理・安全教育を充実させ、実習中・課外活動中の事故やヒヤリハットを未然に防ぐ。	A		
		社会的マナーや規範意識を高め、本校いじめ防止基本方針に沿った学校風土づくりに努める。	A	A	今年度、サポートセンターとの連携を進めるなど、相談・支援体制をよりいっそう充実させた。
		部活動に積極的に参加させる。	B		
		カウンセリングを充実させるとともに、カウンセラーと教職員とのコンサルテーション(支援のための相談)を実施し、きめ細やかな指導体制を確立する。	A		
特色ある教育の推進	特色ある取組の実施	「おもしろまじめ」を誠実かつ謙虚にバランス良く実行できる生徒を育成するよう、各種取組を推進する。	A	B	「ものづくり」への真摯な取組が、ロボット大会・エコデンレースでの成果や地域連携・校種間連携による各種事業の成功に繋がった。ボランティアを行い地域の好評を得た。
		放課後活動「ブラッシュアップタイム」を教育課程に準ずる取扱いとし、生徒を活発に活動させることにより、知識や技能に裏付けられた自信や誇りを涵養する。	B		
		技術系部活動の活性化を図り、ロボット大会や各種コンテストに応募し、全国大会に出場させる。	B		
		本校の特色を活かしたボランティア活動を推進し、技術・技能を活かした社会貢献に取り組む。	B		
生徒募集	認知度と好感度の向上	小・中学生を対象とした体験活動・出前授業等を積極的に行い、小・中学校との交流を促進させる。	A	A	プログラミング教育を推進させたい多くの近隣小・中学校との交流を行った。地域行事にも参加し、工業高校の好感度を高めることができた。
		地域行事等への積極的な参加を推進し、地域に貢献する中で認知度と好感度を高める。	A		
	学校教育活動の積極的広報	学科改編に係る教育内容について周知徹底を図るため、学校説明会・体験学習・進学相談会等の内容を充実させる。	A		
	広報誌「未来ステージ(学校だより)」の発行により、工業高校の教育内容について理解を深めてもらう。また、ホームページのデザインを工夫し、更新頻度を高めることで学校の取組の様子を積極的に発信する。	B			
		中学校の3年生担任や進路指導担当教員との連携・交流を図り、中学生への進路指導充実に向けた情報提供ができるような取組を計画・実施する。	A		昨年度は一部学科で定員割れをしたが、今年度は生徒募集の充実に努め、全教職員の協力を得て学科の魅力を広く伝えることができた。倍率：前期2.16倍、中期1.12倍
学校関係者評価委員会による評価		<p><学校経営計画>地域活性化の視点をさらに盛り込んでどうか。地元への就職も増やし、カリキュラムも見直す必要がある。<マナー・安全教育>社会に出た際のマナーをしっかりと指導しておくべき。自転車事故防止など安全教育についてさらなる徹底を望む。地元との連携模索も必要。<ボランティア活動>清掃活動は地元ではすこぶる評判が良い。<生徒募集について>学校教育が就職後の生活に直結していることをアピールすればなお良い。<生徒アンケート>迎合せずとも生徒の話には耳を傾けるべきである。</p>			
次年度に向けた改善の方向性		<p>工業高校での学習の専門性を活かした進学・就職ができていない者がある。進路指導を充実させ離職率のさらなる低下を。生徒募集の在り方については再検討の余地がある。魅力が十分に伝わりきっていない。新聞・ホームページなど一層活用すべきである。学校評価アンケートの実施方法を見直し親子で話す場として活用するのが良い。安全教育など「いのちを守る教育」については、さらなる充実を図る必要がある。通学経路を指定したりマナー指導を見直すべきである。</p>			